新話 浮世床

初編 上

明治 年 三月一日 調
冊数 九
冊六
藏書は如何なる事情ちも親族の別なく他自宅へは一切御貸渡一不申候
京華 石河光治

へ13
3118
2

特
へ13
3118
2

村田

あっちのハ立ぐ遠ハァ〳〵大学朱熹章句「四書学主の曰さ
〳〵今山高きゞ故ゴ貴くふぢ〳〵馬鹿ァらひ祝めりやァ大学
ぢゃァ秘今川ぢァ〳〵とんざるもとらふぜ。今川ハ大てん遠ぢ。秋愛
小便を好ミ。釈子ガ教生を楽ム事ス。おらァ絶く呉ん居ふァ。
ねーゞのゞ方ま遠ぢァ〳〵ナァニ。よく考セこそ祝へ。おれも子且ふ笑
イきんざるのだらら忘れておるゞ通りゞあるりのゝ。「今川ハ記
ふ呈中ねき。どこのあ釈も不呈とらの物とこそこそぜ。今川の
本ふき人ハ釈不呈と教てあらァ〳〵まち祝へよ。ありやァ五長ぢ

「ナニ不ざよ」「ニ廿不ぢゃァ極く「不でるくゝ為るくのぢ」「ナニメ為
金。もきゃァグれ。そんざ為る碁ざトそんきまの　ヨエ隠居さん憚
みぢらつろちぢらゆのぢ実ざらう。式亭子ぢ情と泄くく
山高きぢ大学ざ子「ナァニ。大学ぢゃァどぜくせんヨエトあからら
隠居もとより大学セ　「ゝ。何。ゆさ。あれも年ぢ考さらら記憶ぢ
悪くくでまゝ根ぢ考くるくさらら。ろえざテ。イヤく。今のく
あ方るぢら大学ょ有る「それ極く「子ところもあ
いろ移へるる「考くゝ清歩まれざ。モシ隠居さん嬰児の時ぢ

上ノ二十三

そんさるゝ忘れ移へりのきま子「さうよ。子。今の何ゝ。ゆさ山。
高きぢ故ふるるぢ。川深きぢ故ょ主て流ぐ「さうさく。
そんなことぢ。ありまセさ「其川ぢ子ゝ抜蓮ぢ生く居ると
いふ続きぢ子「ろろさ。るるぢト川端ぢら抜蓮小便と
好ミ一ある。ぢ。川ぢ子小便をとりゃァ。蛭刺ぢの月高ぢの
いふりのぢ。小便の溜りで死る。ゑ。実ぢ「そこで殺さるぢ成の
「利屋ぢ子「コウく。まぢつろふ極くことぢめる。ナゼそんるる祝子ぢ
殺サレ楽ゃ。ナとらぢらう「そりゃァ侍さんおめくでも有

めハテ夜叉こいふりのハだくして婆もおれハこいく
たりの新造子もめくァる。こ。実もて釈子こいろうらや
孫ハかまづさ。物の道理ぞ「ムウ。ウの石と。さう笑てこえりや。筋
を通居るとらうんざ。ヨエ隠居さん「さうさ「なぜ又そんな
ちよむづかしいのと云ことりんざらう「ヤぶく。あめくぐらい若い
呆が列ち因果の理と乖へさせる為さ。其殺生も仕て
社ると悪いるぞめる。既よあめくむし唐の唐人ふ。何こ
いふ唐人の息子ぞ孫とらいくが有ての足が大の釈者行よ。

其親ぞ寒の肉よ鯉ぞ食こらいとらふ。コデいろく手腕した
ぞ大雪ハ降るし。鯉そさろと氷ふとられてどうも
取りやうぞ孫「こふぞとりのるらや孫ハ一寸歩ー中ア。
とてきるやハが買らァる「ハテ其金がれば何もらふまこと
ふい。今のるん西で苦労さるるら親孝ひざ「むらァ一年
中金ぞなくて苦労さるるら。足も釈者行の内ぞらうス
「それとん沢がまこふ。あめく達のハてんぐふ学ふうる云いこと
「東西く出ん道を切るめくとカラ「扨其大雪の中ぞかき

いけて池の深へめくるくると拡がり一面に厚氷が結てゐると
いふりんぐろら。実ごと。親の為ハ命も物うるごとくまゆ
ハ行ゐるる例もめり「東西〳〵まづ仮ろくまる裸
ニなんで。其氷の上に森とろんで居さ「そりやどうい
不者ぐ「果報ハ寝て待らとらふ氣ごらう「仮さ〳〵ぐう
いふ洲とるるみぢやァ行へ。ソレ。自分の厳のめくまりて氷
が解ること。解と不ぐ鯉と取らうといふ徒ぐ。ナニト親孝行
ぢやァ行へ一アいとるい暖ぐ。氷が解て動ようと落ふうう

とる〳〵親のくるる命ハ捐まね不さ〳〵親のくるる命ハ
捐まる行へなふ不者せうぐ。り生ぐ生ぐ歳て死ぐ結ハ
鯉もとふぐ。生上ふたくと二人の親ぐ路頭ま迷ろうらやァ
あるめへ。おらぐ不者ぢやァまぐ不者に堪えること。まれ
ぐ一氷ぐうぐ解と不ぐ。鯉ぐ居ぐどうまとりんぐ「それ
居るるみと兼知さ「夫でも鯉ぐ氷の下へどう隠れて居ら
仕方ぐあるめへ「そこぐ親孝行の徳ぐ。ハテ天道さまぐこん
ござるうら。ものごゆさせ行へうさ自然と感恵しく鯉ぐ

ひとりでふるあがつて氷の上でけつまるといふが孝行の徳
だなる〳〵それはまア孝行よりもそのらうが唐人が智恵が強へせ
いふならアア知らる。ナニカ。かくさん。鯉が食てへ。アイ百も美味ご。
行て居るト云く手と打て矢出て。まいりう大雪ハ愚論
降らうが貪惜ハ強へ料理茶屋へ行く六十四文ン高ぐ百
出しやア。鯉のハ汲物。サアあがんなせへご。いつも矣ごも百
位な鯉ハあらうちやアめんせへう〳〵「コウ〳〵。あめ達まえごのら
いろ強へ。たとへ令百り鯉が有ても料理茶屋がるくハどうきさ

ん〳〵唐さうでも料理茶屋がのらうか〳〵「山家ときくくハ
江戸近在でも魚類ハ不自由ごよ。実ゝ三里踏ませて
えなさん。切平ふよりて牛魚ハこえるともあふぐ鰯の塩
焼とちさあんの辛くて一口もいけ強へのと。大根とられて若そ
食ふわさ。僅三里遠ても所よりとさうごいよ。あめ〳〵
有ごいお江戸どうり拝ぐ居るらう。いつふいつかと思て
強へ。まハさうだらうが。まごあのもと。甚氷の上へ夜
連りく小便をさせんどうご。「其漏りて氷う解の。ナリ」

鯉ゴ。ひよくてりス。どうぐ。此智恵ハあそろーうらう。そこどちらこ
狩場る小便を好こ。狩子ゴ殺生を楽しるゴ「アハ〳〵いと
ちやあきれさりんご。ダカ殺生とらる内も今の親孝行ら
鯉をとるゴ。殺生でも罪ゴ。「その又罪ゴ。親
殺生をとる奴ハ傳の所良ゴ。コレ兄ん居ら。今朝よゝ垂迹を
ちやアゴつこナト外〳〵ゴりとゆハ。「ヤ然ゴ。
どうゴ。贅こ。早いの。ユウ。ゴ。仏彼弥郎ゴ。夕べ二町目
の曲門こゴひよくてり遊こうらの「コレヤイ〳〵。仏へ〳〵そ

長者様へ宣へ良て ちやべるゴあるゴんエ「然やん
あれゴ。ちこア然さんの口に中ゴ白雲〳〵ゴ。「贅ゴ。
仏所郎ナ。大道寺の砂糖漬を売ゴ居ちやアゴ
うら。言語を黒いりんご「コ」。よゝてめく森ゴ。
「べゝゴうめエ。うゴ。ゴ。贅ゴ。
タべナ。ゴ拭を一筋金奴の女ゴ。ゴ。
ゴてナ。コレくまといれてあこ。
「よゼエ。よゼエ。コレヤイ。息ゴ。

吉ッ子と二アくでナ。拾子へぶらけうとやアぐらこいつぐぐうふぐ
をたときやアぐらこ「然」コ」そ移むナ。諱名ハぢあんこ然でも
そこくいちやア源こ助ぐア。今体あの女ぐ「びん」ヨウトく。東西く
ちらぐ内でそんな出ら生ま移へ。主陸こ乗る活へ止こうハ
「然」なぜ「びん」ハテああく遠の話味ろくと話居るぐけくいそれとも
注太刀とーて居ろうとうとう注貝ふうんで寄るぐ然ライ注こん
サア主ゆうう　此内ろんきよのあろ後ちうひ侍あくびと
ちうぐうとさうやきとりみてもうけとめ　作者曰　これより以下
ともの月代をそう「蓋と結ひ頂くくふ下別ままるうまるとと妻くくぐけんぐ　義人者あ
ヨぐくうくれバこくまハちうきぐさあぐの物こうある中ふものくうりぐふ

髪月代さるうとやはひあうぐべ。且てひづうとて「注」ふまるくもあ
あるひハ毎日ふうひどうとして入まるくもあくーてのこハこうくう
ちうきぐ寄さてのまたて「注」見物ろうぐとぐあうる「そんふよ社加減ふだうさま」居ハ
友達の彩ぐよどれらア「然」へ。体でもぐうんぐ閑こうらぐ
だうーて出るのぐア「ぐ」又注き出ぎれて者くるらうとうつく
「然」そうやアぐ移へ。まくくうりやアのうは人形でなとうらアヨウ
のうまそううら高地ットうう　ぎぐ　舌を出ると「ハハ五」
あうあを　おめく遠ハ然元手まぐのうくうやはーんぐれか今
ぐうぐうぐ
二十ぐふ行ふんぐお対手とハふまぐぐ。年老うぐ待ハ

明珍人。ドリヤ。ヌケ〳〵ちの悪く〳〵達て来ませう。おらぢ
ゑい物ゑ事ても三十六文でもむ「どこへも出なくは
ふところ
さんの銭い四文銭ご子「ナア。隠居さんが紙う〳〵四の人前
へ。三文銭を十文買うて四文銭七文ゑ〳〵風ご「コレさう
悪〳〵ろあ人ぼでもそづむ所でばろ切きて見ぬるよ。
今年も本堂の家根ゞ痛んごろう。檀方中を出ろ〳〵訪
北ところ「あ人さん人皆のりとごろうゞ金ハ出そどと

らう「それで美ゑ紙ぼろりのう。ちれが陽持ゞ付てえせ
ぢやァいゞ珍人ろき「湯持ぢやァ珍人湯ぢりご「コレ正金で
七両二分とろ〳〵ぶん「それぢやァ密まゞ「ろ人でも外ち
一人とちるてろれさ集どろが。先人切ぼ世話も成居ぼろら
「モシ婆さんゆなんて亡いさ流ハ力も落ゆとめ人「そ
年老てえ珍人ぢやァ仏りちぶてるめ人。ゆゞんても恩
ごりのを「それぢやァ時ぐ長人出ーゆさろごろう子「ち人
出ととも。甚ぼ者ごハサ。もらぶ息子夜ゆどれも上下や帽子

袴ぐ仲人を遣をらさして行くこと。おらが位暫れい下女の
引越の祝ひとして。仲人が言ふ話を沓屋で左りのまゝ涙を流
壺を探さく。右の手ゝ酒を一升さげて来ること。イヤまこと恥紙
いろ孫へぢやア利がゆえ極へッコデ。おれハ高ろうゆゑ今ゝ
大うと花嫁が来るぞらうと思ふうら。医者と小半枝買て
来て。鯉の助とうい居る亜人に惠入よ。夫ゝらは仲人信用こと
亜ゝ花嫁が茶釜の下へ焚付る。ソコデ
仲人が嘆うしい事に成の鍋を焼く三〳〵九度よ。

どうぞ。まこうの十出に。てうこ。
能く骨を折て呉れさ人さ。南を以ホイ。
ちうだお会仏が出さ〳〵。ドリヤ〳〵ちうく支度
跡月ふふ極へうら亀が待て居るぞらん。おんぞ。
あゼ人へ又うらかうと云うて。ヤどのさもおゆうと。
うゝ大うう別嬢梅が能うい。主者を拵て来るうら行居れ
へく推宮一袋メツメ四文。四文でもえ安れ廿八文の天窓
が三十二文よ付くうへく会時十八文。拵て来る人ハ位居ん

だうぐ「やうはん宅」止ろト、「きの」の紙屋居ごのう。
「けつろうご」「息子」が仕合せぐぜ「あの」息子もよく持で
利口者ごうぐ身上い大丈夫ごう「娘子」ぐぐ仕合せといふ
のごの「どうもさうそ」「めれでも」「若れ」「時」「今」と
らうう「ナアニ」「そア」「や」「紙」「のさ」「只」「ぐう」「ぐう」「牡」「ぐう」
紙へまごうら利口ぐうの「通へ」「通へ」「者」「ぐう」「紙へ
今俥」「眞」「ぐぜ。「甘」「証拠」「白上」「ぐ」「ぐ」「ぐ」
「野」「番」「ぐ」「ぐ」「ぐ」「身上」「ぐ」「ぐ」「人」「ぐ」「笑」「ぐ」

上ノ三十三

「ぐう」「ぐう」「ぐう」

も袋ホ宮と能く流へれ、よりんく。侍ガ天宮も凸凹乃
ある。いめくすしい形ごナリ〳〵。ぎあんとうの罪ガ浮い〳〵軽ムラ
きふ絵くガ髪結ゆへ罪ガ重ケレバ。ユレスさんし。剃刀の生
絵くホガあふア。石ホ旧跡きんうゝ。「二十四歩のそこゝガ
天宮ア出るゝ。どきうせき」ハ海ものせ〳〵。きうせんアレこゝ。
たまく云ヤ。あんる癡を抜つさアにヨ赤ごう入ふづうめ。
揚弓場こもアあんめし。土コノ帝　一ぐんきめこナ
云もアかるガ馬ごゝ行まゝご〳〵字ホ音そ

山王さうまゝ〳〵ホ一馬ガ〳〵云ヤ。ふと夫ホ庚申さ陸ごア〳〵ホ
携絵くホ山ヤさ多くもれガ見ごゝ。ホしガ宗ハ日ヨ赤ゝ
亜ア。南無阿弥陀仏や南無妙法蓮華経ごヤア感物ガ
絵くコウ。もらア仏ゆも頭ハ絵くガ。もくバ二千百年ゆ
て死ぶふ。車をくハ浅草へ跳へて。□の女ふ梅さ松のく
そいつを牛車みのせて馬庶嶽子よ。ヨニカ。施主や店主
ゆハ赤鮫で面とるぶつて。「ひようと」を踊つて貰ハアく
そうしてふ祝ふも昔ハを。そこ主ようら。友子友達ガ

手おすで凄摶とやふかして呉のようなるおしゃうぶぜ。
ホンニヨ。今ふ遺言ふまして奇ァ。若旦達ッを幽霊よなりて
ろろ付ァ「てあくの面で幽霊ハとそはふ極く「ゆれと青羽やの
極よ好男でおくッちやァ人極く「チョッまんでもけちなぶ。
そんなふ仕方ぶ極く化物で生て呉べいてうど紙。野暮ろ
化物よ為て出りやァ箱根うら先ぶ「平治ぶ化よゆめやァ
取付極くス▲「なんの江戸ッ子まぶひゃとんを掃部ぶめる
ふふ江戸ッ子の評判記ぶ悪いト今まるハまてき毒しゆふあどえの
かるくなどゆもとてきくしいふ

ロンもある「サアく顔ハ大軍とるゝそまぶぜ「真時紙さん
かも騒ぶどサ「なんのだふしも極く世ふ
「きせる」を「ひうき」ふど「ゆでも四文と生ぶるら不便ど「コウ
いふぶび下俗の方言ふ
でくぶをふふふの「然ふ。何足居ても「ひのくたれ」ぶまぶ
畏渡ーや羊履隠ーふまる仲間ぶる。紺地利面の禅代
ちあれべこんせぶぶ体ふ合ぶ。ふるも極く何程ふふ極ぶ
高ぶ生ふ分ふ一ふ糸ョ。歩打のちれふまを大息ら「く
こんせぶるのぶこんよりハ然ふゆかるらァ。「声色ハ此態さん

の比誕生ぎ安くと寿れくれ江戸櫻の三の朝三馬が所乃
江戸のあっと寿湯ゐ浴て下村松本のとて賢分。玉屋の
紅とこきすぜて麝を上くる色男「コウ〳〵。どうちさく。
悪い射きまぐ遠くくぜ。町内の厄介者ご「そしてゆさら。
声色の「ぐっぐらう「今流行絵人の「そ絵ゐく。
添之松助ろひふ比色ごと誤ふ色男ご「ゑめへの
面ごそちや。誰でも吉年ぐ「めんまり女ぐうきいてゐふ
絵人くら女人禁制のれと生とはりぐぐ「ようらう

「此男ろ三年之用「二サ札を生ーさよりへきろいふる「
ろ男ゐへ何ぐるる「ぐ安んこ面ゐへ魅ぐるる「へ小ろる
めらぐ木ろ尼をるぐるる。四百で遊ぐぐ「鶏を割くふるんぞト
「誰ぐく。古風ゐるをとる「あてくえきん」「ろいふ
ゐくくふ絵人「あてくくふいくくよくと「卑劣ゐをとふる
「待てく指でそれくふア。ナンダ。小指ゐ茂の丸ゐ膏
茶くと注ぐる奴ごナ。魚版ゐ乙中ろ毛ごゐぐらふ。ア

ちれるとく。ハテ。誰ざらう「亀ナ」ざるア「ワイ」「然」「並び大名めらが
やはーム「亀」「ひんてんるはぐどりハ弓る我ざ「然」「弓る我兄弟鬼王
園ニ七役ざ「ひんてんるホ」「然」「待てく」やはーム。アイタ〳〵。
目をきつくとるる痛りん「ちれまいト」「然」「ちるるとと然ぐ
「ぎろとておりやァ且那。ぐ」「生八坂の且那」「ぐ」「ぐ」「ぐ」
ごとおりて大きふおるる対やはーこ。且那ーとんおりひち対
初。おあさん今日どちイお生るるさりやと「且」「ーー一す
ちるぜ。些二精を生さんーこ。「ぐ」「ぐ」「ぐ」

「然ヨウトきてくりナ。傘かうて猫とまり。下駄ひらくりかへして
素足となれヨイくト手招ぎとろ「雷門のうしろへ出てくみれば、
「どうぐ然ゑ「辰男どうぐ「辰亀さん待きんもあるあいの
拵さんどうぐまぐ辺がめたろ「ちぐ五つまりやと「辰そいつを
たのへんぐめてまうう「然まこと新道ろ「辰うへのもめくぢゃみる
めへ。トゆき「然げのあんち「然鯨人が内よ「然鯨人とうへぐ「然ちれ
行ろ。ちれぐゑ嫌掃まぐ待へ「びくく伝
文字ろ「然さう云ても姫郷ろ声ぐ「辰あの浮郎ハ
ぶらと立ぐぜ「びん強のそもふりてる連中ぐる「然さうのふる
「あもてー子ぐぞ「辰怨頂の「ゑト表徳ハ甚六ぐらう「然よく
そ稼む奴等ぐぜ。伝文字ふふ。めてうへや。然さんの声ハ清ぐ
めうそいろそ然「辰ぐそうまく食せるナ「然清ぐ悪く清
込ぐ地弾へ。ろうぐろ。たぐぶーふちろうる稼「然どうでもこと
こうそぐぶ世話ァそれぐ連も。釜の下ハ張ーみやァなるへ。
それでも會ぐめりやァ。然さん一枚も世話ちたるぐぶ。どうんでも
びくともさせやァー稼「然含ぐみりやァ伝の世話ァと存。

「ちやうと赤飯へ入るぞ」「序ふ燒場へ入りて中ぐらう」「然るが序へ這入て居る所の者、三味よ」「者へ」。
めいつの者うぐん者ぐ。こいつ者ぐ「かつさらう」「又いつよ」。
又いつよ面白くも極へ「戻なるを語る所ぐ先生ある極へと」
きどみるうらけいと本のところへ○や△やいろくなる
切りみをして見さといつの奴ぐよ。ソユデ中更へりて先生あ
目を極ぐつて車輪でかつ居る間ふ者ぐ三弦式
弾ぐら。本をキヨイと四五枚と極てちぐね新ふ。先生

それもちぐよ。中更へ二ぐん中ぐ仕業て跡のキツカケ式
ふちうとして目をそちらへ呼くと。小舟町二丁目中の横丁
伊賀屋勘右衛門板といふ所ぐ出てゐるうぐ。肝を洗て
急ぐ一枚ぐ用てゐる者うとする内。者ぐ者ぐ意地悪ふ
掛声をして三弦と弾うける。こちらいとちり切くまぐく
狼狽る。ま是をる内聽人へ毒と云出とう「コウく。コウく。
社加減よ志さんぢ。ぱちくふ極へことをらうぜ」ト表とへて「ウヤく。
きてれうく「すんざ」て。お大ぐの物「すんざとらくバサ」て。

をとゝれば「進ぜう」「乗んせう」「熊さん」「新ぞさ」「ヒット」「隣の
源兵衛風呂」「中」「仏の陸子」「とめけてあご文字とらふ」「人」「熊のつぎこそれ」
十四五の娘子」「浴衣」「陸子」「熊」「ヲイ」「合点」「トそこ」「あけ」
「モット」「陸子」「あけやナ」「ヲヤ」「熊さん」「仏さんどうぞ」「子」「一杯」
「ヲヤ」「熊」「今」「四つが」「ヲヤ」「ヲヤ」「早」「紀ぞ」「の」「たら」
「ヲヤ」「ヲヤ」「ヲヤ」「そろひぞ」「子」「繁さん」「一杯」「ヲヤ」
「ハテ」「ときと」「ト」「モシ」「お吉さん」「どうぞ」「とろ」「ヲヤ」「さろ」
「ぞりあ」「あかられ」「子」「公」「花さん」「どう」「ちる」「とろ」「仏中」

教へ上げ」「行」「いぞ」「ル」「なる」「ろ」「ヲヤ」「ヒ」「けあの」
「お」「浅」「で」「大きふ」「社」「ろり」「中」「ご」「ぞん」「ふ」「まぞ」「あれ」「も」「行」「後」
「ヲヤ」「のあれ」「坂」「ヲホ〳〵」「ト」「もちふ」「ヲヤ〳〵」「ぞ」「ろ」「ヲヤ〳〵」「ぞ」「ろ」「と」「ろ」「と」
「亀さん」「きん」「ぞ」「人」「浪」「ぞ」「子」「ヲヤ」「さう」「ろ」「ぞ」「ぞ」「ぞ」「の」「さ」「きん」
「痛」「ぞ」「ぞ」「叶」「頂」「人」「欲」「紙」「きん」「居」「ヲヤ」「ナ」「紙」「後」「ぞ」「ぞ」「ぞ

道理でお睡さうなお顔だ。ろんゐ兎さん。ちっとお出なさ
めんきりさういふんざま。おまへ方さん三人侍さうに又面〳〵ふい
ぶ向が付さうなるもの。ヨヤ〳〵忘れさん。侍さんきのふお形
きとるわるわ合はせよ。後ほお出なさ。兎さんも鮫さんや
侍さんと一緒よお侍なさらば「ハイさあうあら。
トとモ　モシ　鰐さん。又化物だほ　よお出なさ〳〵「ちのと
こうぐふせようの「ホンニお吉さんへよろしく。茂さんも大ま
ふなさいほ〳〵ョバイめでたい。ト　ふり坐でふぐくの方と一ずつそぎると
ゆ。ふぐくふ侍と一〳〵ふぐ

上ノ四二

ちうろうて「小ぐまく鮫
鮫わるくふ
鮫「ろんざ什小女ハト　にくしこと　進るみよ　ふくとするさね
めくど「ろんざナ什ろんぞうけるさんなとらるわ。ト　鶴亀ハの字をめど
ろる　ぶ　ひとりやあさり
べ「らまくいふぜェるァ「めの子ハ今体世るのぶ社「別〳〵
鯨　会ハ世るのが省扱ぶ「それぶふとるるとえ社ナ。安一
坐敷が上まぶに。氣ざが社ときてあるわ面ぶまぶいとちふ
りんぶふ。鬼ょ沒梅佛ょ蓮華だ「ヲイえさん。社年塔ぶ
通るぜ「コウ〳〵判刀氏長とめんぜ留をちふぶ社ナ留。

アレこんや新方うらじしめなどものを「ヲヤく」然かく「とろくと
さてきてと美しい。なぜ潟縮緬揚ひふ帯が厚板みわで絡く。
紙頃の中年婆ぢ「そしい女が子持ふなつくせ「アノ情ろメ
結ふ姉ぢらう「乗さてをふ潟ゆる形ぢせ「然妹のざゆアえや。
姉ぢしこんさてんきう遠ろ居ふア。鼻筋が肉へ通ゆて目の
玉が丸い。乗道へ引ぢ「然驚ス髪結と入ゑて夫婦ゆ
利居るが。裾ゆ赤ゆ入風ぢ「腰ふ下ゆ羽ぢ色ことと
いふのぢ「面と網ふかくぶナ「乗きく声ふ仰ろろ

上ノ四

「乗そくてんや。きけ。ぢしの婆ゆ剃刀で剃迎で梅ぢせ沢ゆ青
で居るらいくふ白粉とひんゆるそんも女形の姿としふのんざ
「めれよりハ坊主様で然ふ。本地の侍でおしば然ゆよ「イヤ
又首筋のきふちて奴ハさアつぞりして然せ「只の女がいくら
作り麗いろて。ゆんのゆぶ又江戸鯨舎ふかゆふそのろ。
十人よせても髪の風ハ同じゆぶぜ。意ゆまで人柄がよくく。
「乗アア男さゆと云ふ足計も泊へいさ。それぞくらおぢ
「乗へくぞうめ。又仇又意ゆ然きろん先くぞぶぜ。只長寅

ざといふてやるよ。おかゝ〜はり行へト云ふと「然よく。後ァ〜ちゝ
ゐんを今お菓子ゞすき〜ふ買て来らう。とゝゝ〜もてお土
産。今ゆ兄ゝん姉さんがお出ざよ「乗」「アレく。お菓子ふぶすき〜〜
ちりやァ〜。ぬゞく〜トいふ所へ日傘をさして来る。紅めげる菓子屋を
あるゆゑ方角ゆ菓子ゝ屋かつぎて来る。此菓子屋ゆ四五人
よりて人物遠へ〜
「紅毛よろかん本よろかん。家中まんぢゅ
ゆ取二来まりち「乗」ヲイく菓子を買べい「ハイく「そこゝ居る
お坊さんゆ上てくゝる「ハイく〜ト来て「乗」サア然ゝ食ろ
「然」菓子さゝ来まゞ稼く〜いゝろ〜ナ。ゝらァ下戸だゝふ迷解と

せう「然」ゝらァ今朝迷酒とゝる来もゐゝさ。夕べゐぶゝふゝ
ゝ酔〜ゝぜ「コウ雑魚ゝゝハイそこのところ三十二銭
とゝゞ北四銭。代中ゞ四銭ハ浅「乗」コウこゝやァ仕ざ「乗」狸饅「乗」
狐魚ゞぜ「然」そんゐふ呼へ「然」猪ゞちぢやァ稼へ「然」コウ金行ゐ
商ゞ出まゝぜ。ぬゝゞ毎日咲ゐくゝとゝとゝで云〜〜ゝさん
「ハイへ〜ト答て「云ゞゝ。又変わゝふァ「ハイト出ちまり大きな声で紅毛
ようかん本ようゝん。家中まんぢゅゆ胴二来まりち。いまゝろ湯巻
かのとりち。きうまんゝ。白まんぢゅ。うゝとゝふ紅梅麻茶饅。

有京橋ふくろ仙業こうがい餅うぐひとりち。業者師
ふめぐりのち。咽の奥までひよこ。ふよこくさるのぐ山椒のち。
麻苧野雉ュ狸のち。茶のちちのいと巻めんとろ餅「ヤシヤく
「きろいく」トらふ丙ニ三人つれまそ近所の「ハイ御免なさい」トいさみ
ひとりぶ連中入りする
ヤ且お生なさい「アイ今日ハ「大ぶも稼ぐ
ございまさと子「アイちつと用淫が聖吉「繁ぶんどぐ「ヤ
聖さん賢義さん「付るそ」ト云ぐふいきこのハイ御免なさん
まそ平こと上る。皆ちのちろふ粥と「ヲイ飛込ゆ「ヲ

「あれもりう「ちそと油と寄ろせ「コウくあれそびまと
盃逃の女房ぢろうと思ぶハ友達まで盃ちまとはぜ
「上ろうおそ人ひとりでもうとこめくまりはれまい勉強る。彩も
ともにもくらいみやと男の撫ふふひ付ろんとぢうふ
注ちぐむワワンワンく「おそろしい文句ぐの。その面で嘗ま
ちやア密柑駄の地震ぐ「紙のよ打撃ってお盃彩ハ一人で
ちあるよコウ。そりやァいくが。悪い腹治稽ぐコウ皆ぐつき合
紙人。腹痛ーと云ぐ人「何ぢでも紙ハナ。そとも

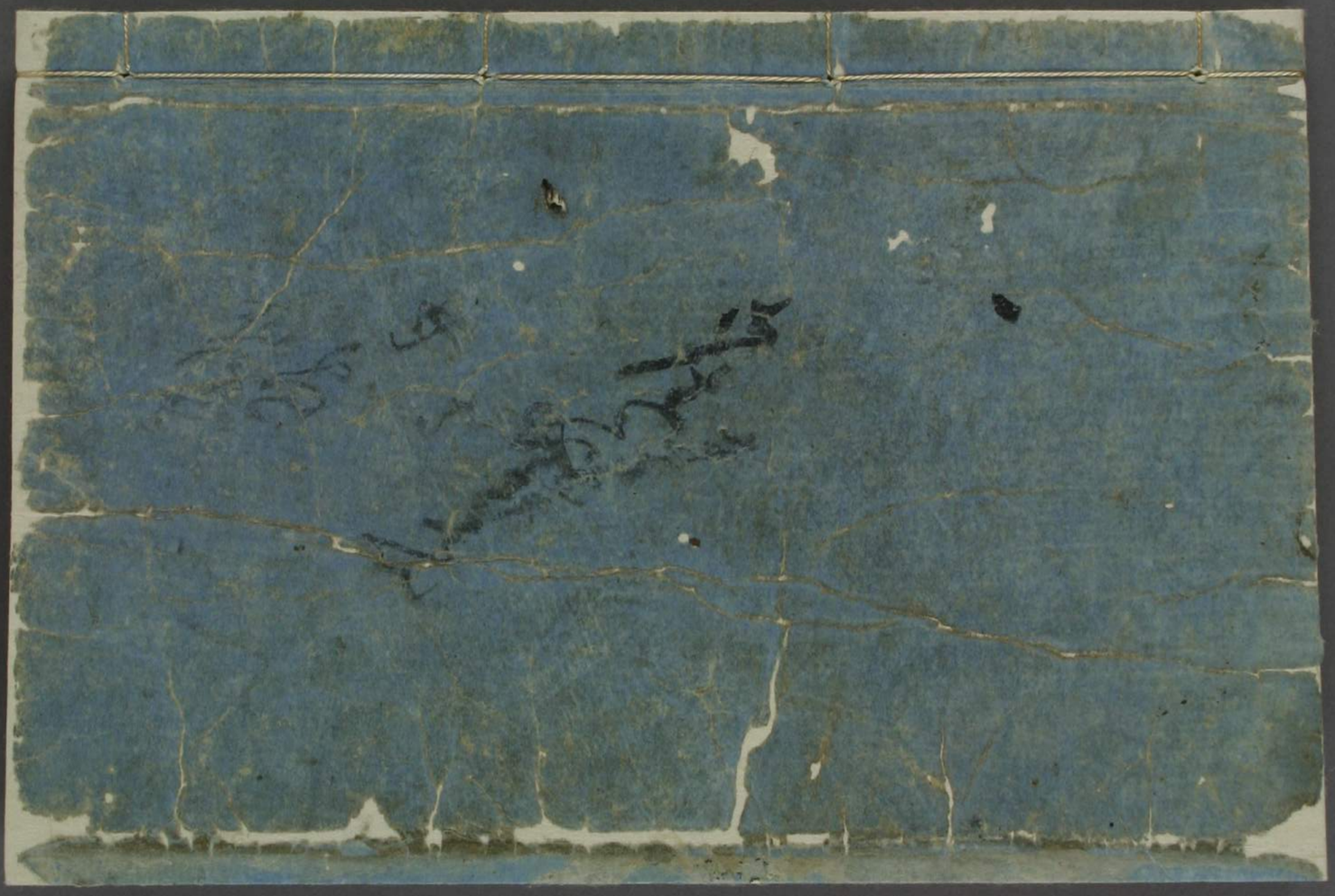
然きんの手形ゞア「ハイ」ハイ「ハイ」ハイ「ハイ」ハイ

坊さまなげ
大きな高声で

どうぞ お稲ゲアアい。「柳ハびっくりして。「ホイ

已刻の鐘声ゴヲ。

柳髪新話浮世床初編巻之上 終

江戸神

大神芝京川
木堂政